

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700428		
法人名	社会福祉法人ファミリー		
事業所名	ハピネス五戸		
所在地	〒039-1552 青森県三戸郡五戸町姥堤34の1		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

車椅子、歩行器、杖を使用する利用者が半数ほどを占めているが、個々の身体状況に合わせた介護技術の提供を行い、滑り止めマットや浴槽用手すり等の活用で、家庭浴槽でも入浴できる環境を作っている。敷地内には畑や花壇があり、花木を見て四季を感じたり、畑で作物を育て、旬の食材を楽しむ事が出来、畑を通じ、併設施設との交流も行っている。又、地元ボランティア団体、個人ボランティアとの定期交流を行い、地域の中に住んでいる実感がある。同敷地内に特養、通所施設、居宅支援事業所があり、退所後の生活も継続して援助が出来る環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念を全職員が理解し、楽しく穏やかに過ごすことができるように意識して実践している。行動を制限することなく、自由な暮らしぶりを提供するため、日常的な外出も職員間で協力して取り組んでいる。また、法人は職員の質向上の為の取り組みも行い、それぞれがモチベーションを高く持ちケアにあたっている。隣接する特別養護老人ホームとの情報交換も行われていて、退居後の生活も援助できる仕組みもあり家族の安心にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に触れる場所に掲示し、意識付け、理念の共有を図っている。町内の行事への参加、外出を行っている。	理念に沿って、安心してその人らしい生活が継続できるように支援している。また、理念の見直しが必要かなどの話し合いを全職員で行うことで、意識づけにもつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、職員の参加から始め、町内の行事参加の際の場所提供やボランティアをしていただくようになった。地元ボランティアとの定期交流、中学・高校生の職場体験の受入れ、災害協力隊参加の避難訓練等、地域とのつながりを持っている。	町内会の作業への参加や、町内の市日への外出、野菜の差し入れ等地域の人々との関わりを多く持っている。地域の中・高校生の職場体験学習の受け入れや防災訓練等地域とつながりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町のキャラバンメイトの一員として認知症に関する研修案内を掲示したり、養成講座の開催等協力している。職員は地域の認知症サポーターであり、施設玄関にはサポーターがいる事をPRしたシールを掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回委員の方と会議形式で、写真資料をもとに状態報告や地域行事の情報交換を行い、年に1回は入居者全員参加での交流会を行い、現状を見て頂いている。地域の方でなければ分からない情報提供して頂いている。	開催日時を定め、町担当者・地区民生委員・入居者と家族等が参加し開催されている。事業所の現況報告が殆どであるが、地域からの情報提供も頂きながら意見交換を行っている。結果は全職員へ報告し、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告・外部評価の報告は速やかに行い、生活保護や制度に関する疑問等不明な点は担当者に伺うことにしている。又、空床時には情報提供し、緊急入所希望がないかの相談をさせて頂いている。	町担当者は運営推進会議に参加し、情報や助言を受けている。また、町主催の研修会の呼びかけにも参加するなど関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に「禁止の対象となる具体的な行為」についての掲示をし、職員・家族への意識付けを行っている。玄関の施錠はせず、入居者は自由に出入りすることができる。玄関や出入り口に鈴を設置する等し、事故防止をしている。又、帰宅願望から外へ出た場合も、散歩につきあう等、危険を伴わない限りは、本人の意思に任せるように心がけている。	職員は事業所内外の研修で理解を深め、共通の認識でケアに取り組んでいる。外出も制限することなく、玄関ドアの鈴の工夫や、散歩等の対応ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、入居者の人権が守られるように努めている。法人の法令遵守マニュアルについては内部研修を行い、職員の目につく所に設置し、いつでも見られるようにしている。日頃の言葉遣いについて振り返りをし、注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を活用している方はなく、相談があった場合や必要とされる場合に備えて資料をまとめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前面談にて不安等を確認し、重要事項を基に説明を行い、同意を得るようにしている。料金改定等の時は事前に文書にて案内し、来所時、再説明・同意を得るようにしている。退所の際は居宅支援事業所紹介等、提案・協議するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	他部署職員や施設長が随時訪問してくれ、利用者とコミュニケーションをとると共に意見の吸い上げを行ってくれている。又、併設施設玄関に意見箱がある事を知らせ、利用できる事の紹介をしている。その他、不定期に第三者委員の訪問があり、環境設備の不具合さや職員の不安等を聴取して頂いている。	入居者・家族が気軽に意見や要望等を話せる雰囲気作りに努め、その他併設の特別養護老人ホームに意見箱が設置してしていることを説明し活用していただいている。遠方の家族には近況報告も行い、意見を求めるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議で業務内容や入居者に対する不安を聞き、全体で話し合うようにしている。年度初めに施設長方針に基づいた職員の個別目標をかかげ、達成できるように全体で取り組んでいる。又、モチベーションを維持できるよう管理者との面談を設けている。	管理者は各種会議の中で職員との意見交換を行い、個別にも面談を行う時間を定期的にとり意見を聞いている。施設長も職員との面談を実施し広く意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の導入や介護報酬アップ時の職員への還付金支給は金銭面での満足につながっている。今年度は自己研鑽費として全職員に対し、補助金が支給され、モチベーションアップにも影響している。又、施設長や管理者との個人面談を行い、意見をもとに、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が何らかの外部研修に出る機会を確保し、伝達研修を行っている。法人主催で介護職員初任者研修を開催し、資格取得の機会が作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町や他施設主催の研修に参加することで医療や福祉についての現状を知る機会として活用している。同法人内での共同研究委員会への参加で系列施設職員間での交流の機会があり、中央からの情報提供で最先端福祉事業に触れる機会としている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報や事前面談にて本人・家族から状況を把握し、思いや不安を受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報や事前面談から家族の状況を把握し、身体状態や認知症のレベル低下や金銭面での不安を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人と家族の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返すようにしている。入所申込の段階で「困っていること・不安なこと」を伺い、入所決定時に再度思いを確認するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の挨拶を大事にし、感謝の言葉を忘れず、言葉遣いが雑にならないよう注意している。入居者と一緒の生活の中では昔の知恵や習慣・畑作業での助言等、教えていただく機会を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の暮らしぶりや日常の様子等を細かく伝え、情報の共有に努め、本人を支えていく協力関係が築けてきている。又、重度化してきた場合の家族の意向の確認をしながら、本人の想いに沿った支援を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の商店や市日等に出かける他、農作業風景を見るなどし、四季の変化を感じられるよう、ドライブに出かけるようにしている。併設のデイサービス・特養利用者を訪ねたり、面会人として訪ねてくることがある。	日常的に入居者とともに市日やなじみのスーパー等へ出かけている。併設のデイサービスや特別養護老人ホームへ知人を訪ねたり、なじみの理美容店の訪問も受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の対人関係を把握し、トラブルが起こる前に、座席、テーブルの配置変え等で接触を避けるようにしている。難聴の方もおり、ホワイトボードを使用する等、コミュニケーションの橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培われた関係性を大切に、相談や支援に応じるよう対応している。併設の特養に入居した方へは訪問し、挨拶をするようにしている。施設夏祭り時に、以前の利用者家族が声を掛けてくれることがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に暮らすかかわりの中で、入居者、家族との会話の内容や表情から一人一人の思いや希望の把握に努めている。把握の困難な入居者については家族から情報を得たり、日々の行動や表情から本人の視点に立って話し合うようにしている。七夕の願い事や誕生日に欲しいものを伺う等、行事を活用している。	職員は一人ひとりに寄り添い、会話などから意向の把握に努めている。把握の困難な場合は家族から情報を得るとともに本人本位にて検討し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、担当ケアマネージャー等から聴取するようにしている。入居後も本人の会話や家族から情報を伝えてもらい、これまでの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の暮らしや生活のリズムの把握につとめている。又日々の心身の変化にも配慮している。暮らしの中では、出来ること、分かることの発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向と職員の気づきや意見をもとに職員全員で課題となることを話し合い、入居者本位の介護計画を作成している。事故や怪我で状況が変わった場合は、分析や対応策を盛り込み作成している。	ケアプラン作成にあたっては、家族や本人の思い・意見を聞き反映させるようにしている。モニタリングも定期的実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子、家族との関わり、身体状況、排泄、入浴、食事等を記入し、本人の発する言葉はそのまま残し、素直な思いを受け止められるよう、職員間で情報を共有しながら、日々のケアを行っている。又、記録をもとにできる事、できない事を見極め、できる事に注目し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には居宅介護支援事業所や認知症通所介護事業所等、相談できる事業所がたくさんあり、在宅へ戻る場合や入院・退院後の家族不安等の解決に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の商店や市日での買い物や近隣の田畑の作物の成長を見にドライブし、話題を提供している。訪問ボランティアとの郷土食作りを行うこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族が希望するものとなっており、受診は基本的には家族にお願いしている。病院までの移動が困難であったり、家族が都合で来れない時は職員が代行している。病院へ伝えて欲しい情報、その日のバイタル等をメモとして家族に渡している。	受診は基本的に家族で対応していただいているが、受診内容が共有できるようなシステムを構築している。また、かかりつけ医は、本人と家族の希望する医療機関となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は「いつもと違う」「何か変だ」という気持ち、気付きを看護へ相談、報告している。昼夜相談することができ、急変時への対応等も指導いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーにて施設での生活状況を伝えと共に、入院中も担当看護師より情報を頂き、早期退院に向けて、調整を行っている。又、施設へ戻る際には注意すべき点等伺い、入居者の負担が少なくなるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針について」説明している。看取りについては現在行っていないが、入居者の重度化に伴い必要性は感じている。食事摂取のレベル低下をめやすとし、面会時に経管栄養についての考えを伺うようにしている。終末ケアについて内部研修を行っている。	入居時には終末期に関する指針について説明を行っている。看取りを希望する家族が現在はいないが、終末ケアについて内部研修を行ったり、主治医と相談するなど取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応として人工呼吸や心臓マッサージ・AEDの研修を行っている。時間が経つと忘れていたり、自信がなくなったりするため、看護から手技の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月施設設備の点検を行っている。災害時に備えての避難訓練を併設施設や災害協力隊員を交えてもっている。単独での訓練も実施、マニュアルの見直しを行っている。	隣接する特別養護老人ホームとの合同防災訓練の他、単独でも、夜間想定訓練を行い災害時に備えている。また、災害協力隊も編成され、訓練には参加の協力を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼びかけ、声かけにはブライドやプライバシーを損ねないように注意している。内部研修で声掛けについて振り返りをし、注意している。	入居者一人ひとりにあった対応を心掛け、常に尊厳の気持ちで接することができている。排泄時はプライバシーを傷つけないように言葉かけには十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方的な指示にならないよう、選択して頂く等し、自己決定をしていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身の状態に合わせ、寝る時間、起きる時間、食事時間、散歩、おしゃべり等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望、好み、生活歴に応じて選べるように支援している。毎日ヘアスタイルを変えたり、髪飾りを変えたりする方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑からの収穫物の下ごしらえを手伝っていただき、おかずとして献立にとり入れている。収穫物や果物で季節を感じてもらったり、話題の提供となっている。	職員が献立を作成するが、入居者の希望や好みを取り入れ、美味しく食べることができるよう配慮している。職員も隣に座り同じものを食べ、おしゃべりしながら楽しそうに食べている。茶碗や箸も本人の希望する食器が使用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士や看護師に相談しながら、トロミ剤の使用やエンシュア等処方依頼している。水分不足だけでなく、塩分摂取にも注意し、体調管理に努めている。希望者には口腔リハビリを実施し、専門医師からの外部評価を受け、嚥下や咀嚼の状態把握に努めている。毎月の体重測定を行い、観察のポイントとしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の体操の中に、嚥下能力を高めるものを取り入れたり、歌を歌うことで声を出し、唾液を出すよう促している。食後のうがいや歯磨きの声かけを行い、実施している。口腔リハビリの専門医師からの助言から、紙笛を利用し、遊びを取り入れながらの訓練も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入、記録し、排泄パターンの把握をしている。トイレのサインを把握することでリハビリパンツや尿取りパットを使用せず、トイレで排せつできるようになった方がいる。	トイレでの排泄を可能にするため、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、日中は布パンツで過ごしてもらうなどの取り組みも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時のお茶を飲みたがらず、水分不足から便秘傾向の方が多いため、毎朝の牛乳摂取で排便を促している。牛乳が苦手な方には乳酸菌飲料や野菜ジュースを提供している。夏場の脱水予防を兼ね、水分補給時にも飲用し、排便に繋がった方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日、入浴の順番、時間、回数を本人に合わせるようにしている。座位保持の難しい方もおり、職員2人介助で行なう事もある。入浴したくない方へも時間差での声掛けやシャワー浴のみでも本人の気分に合わせ行うようにしている。	週2回以上は入浴ができるように、個々の希望に合わせた入浴の支援が行われている。身体能力に合わせた対応も心掛け、安全に行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの疲れ具合、表情、希望を考慮し、心身の状態に合わせた休息が取れるよう支援している。個別の睡眠パターンを把握し、日中の活動性を高めるなど、安眠につながるよう工夫している。次の活動へのメリハリをつけるように食後には臥床し、休息をとっていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を職員が毎食分、分包している。処方箋を見比べ、変更がないか確認し、副作用を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から洗濯物たたみ、畑、趣味活動等経験や能力を発揮できるような役割作りをしている。自宅から音楽テープを持ち込む等、楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や入居者の体調を確認したうえで、散歩、町内の商店やスーパーでの買い物、市日等に出かけられるように支援している。入場券の必要な場所でも家族会や自治会の補助を受け、楽しめるようにしている。定期受診の帰り、家族と外食してくる方もいる。	入居者一人ひとりの希望に合わせて、入居者の馴染みの場所やスーパーに出かけている。また、家族と一緒に外食会を計画したり、地域の行事等にも積極的に出かけるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向もあり自己管理している方はいない。外出時など職員と一緒に金銭のやり取りの機会を作るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることができなくても職員がかけたり、かかってきた電話を取り次ぐと会話ができるため、希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、居間、食堂とつながっており、ソファやコタツを置いている。廊下には入居者の作品を季節ごとに飾り、居心地のよい場所になるように配慮している。	入居者と職員の共同作品が綺麗に飾られてあり、季節を十分に感じることができる。小上がりの畳の部屋にも手作りのクッションが置かれてあり、家庭的な雰囲気である。明るい室内は場面に合わせテレビをつけたり、音楽を流すなどの工夫をして過ごして頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	対人関係から、食席、テーブル、椅子を変え、職員がフォローに入りやすいようにしている。ソファで利用者同士話をし楽しまれ、和室で食後、身体を休める方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、使い慣れた生活用品の持込を呼びかけており、写真や家具が持ち込まれている。家具の持込が難しい方には担当職員がその方に合わせた装飾を行っている。	居室は入居者の好みに合わせて、家具も自由に持ち込まれ、レイアウトも本人と家族が行っているため、心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りのカレンダーで「今日」を理解していただいている。個別で立ち上がりしやすいように椅子を設置したり、コール代わりに鈴を鳴らしてもらう等、工夫をしている。トイレは分かりやすいように貼紙をし、目でわかる案内を取り入れている。		